



© Yuki Nakase

"Centennial Holiday Light Show" in Grand Central Terminal's Main Concourse by Toshiba Corporation

## 『夢』の創作

芸術監督 Jeffrey Horowitz によって 1979 年に創設されたパフォーミング・アーツ団体 Theatre for a New Audience (TFANA) が、2013 年の秋 Brooklyn Academy of Music や Mark Morris Dance Group の本拠地でもあるブルックリンの新文化地区に移り、新劇場と共に再始動しました。新しい歴史の幕開けに相応しく、2013-2014 シーズンの第 1 弾はブロードウェイ・ミュージカル『ライオン・キング』にてトニー賞のミュージカル演出賞と衣装デザイン賞を受賞した Julie Taymor 演出によるウィリアム・シェイクスピアの『夏の夜の夢』でした。

共同制作者も巨匠が勢揃いです。ロンドン五輪閉会式を手がけた Es Devlin の美術、Taymor 演出のブロードウェイ・ミュージカル『The Green Bird』にてトニー賞の衣装デザイン賞にノミネートした Constance Hoffman の衣装、『ライオン・キング』にてトニー賞の照明デザイン賞を受賞した Donald Holder の照明、さらに特筆すべきは Sven Ortel のプロジェクションです。Ortel 氏と Taymor 演出による映像の使い方は、時に美術のように場面を設定し、またある時は衣装のように役者の体を被い、さらには照明のように場の空気をもたらし、そして振り付けのように役者とともに舞台上に動きを加えます。TFANA の観客は、すべての視覚的・聴覚的演出要素と、役者に乗り移ったシェイクスピアの

演劇に対する情熱が一丸となり、生気が舞台の真ん中で爆発したような瞬間を目撃しました。

『夏の夜の夢』は TFANA の新劇場における第一弾であり、さらに Taymor 演出が 2011 年にブロードウェイ・ミュージカルの『Spider-Man: Turn Off the Dark』においてプロデューサーとの論争の末に演出家の役を降板して以来の規模の大きな舞台であったため、ニューヨークで大きな注目を得た作品でした。テクニカル・リハーサルに伺い、オープニング前夜のプレビュー公演を拝見した筆者は、幾度も作品についての感想を尋ねられました。「美術デザインは良かったか？」と美術デザイナーの友人に聞かれた際、私の本心から自然に出た言葉は「美術、衣装、照明、どのデザインが良いと言い切れない。なぜならすべてがその他の要素を必要とし、舞台上で共存している。」でした。

照明デザイナーである時、少しでも印象に残るような場面を作ろうと無我夢中になりがちですが、照明が印象に残る作品は失敗であり、作品そのものが観客の人生を変えるような創作の共同制作者であるのが本望だと思います。Taymor 演出『夏の夜の夢』の成功は、演出家と巨匠デザイナーたちの名声だけでなく、制作陣全員がシェイクスピアの元に舞台への想いが結束した結果であったと言えるでしょう。